

U2章 形容詞の構造10種類

日本語の形容詞の10種類の構造について次の順序で説明します。

- ◎ まず形容詞の構造10種類を一覧表で示します。(10)
- (1) 本来の形容詞 (10)
「良い」「重い」「安い」など、それ以上分解できない形容詞です。
- (2) 微妙意味付加詞を伴う形容詞 (11)
「お・いしい」「こ・高い」「ぶ・厚い」などの形容詞です。
- (3) 実詞(名詞)(+α)が形容実詞になる形容詞 (12)
「青・い」「大人・しい」「学生・らしい」などの形容詞です。
- (4) 元の形容詞の主体・客体を含む形容詞 (15)
「毛・深い」「未練・がましい」「目・新しい」などの形容詞です。
- (5) 動詞と形容詞からなる形容詞 (18)
「蒸し・暑い」「待ち・遠い」「読み・にくい」などの形容詞です。
- (6) 2つの形容詞からなる形容詞 (20)
「細・長い」「狭・苦しい」「浅・黒い」などの形容詞です。
- (7) 否定形による形容詞 (21)
「くだらない」「いけない」「みっともない」などの形容詞です。
- (8) 動詞の原因態が形容実詞になる形容詞 (22)
「望ましい」「勇ましい」「よろしい」などの形容詞です。
- (9) 省略による形容詞 (24)
「きもい」「ださい」などの形容詞です。
- (10) 構造未詳の形容詞 (24)
「うるさい」「素晴らしい」「まずい」などの形容詞です。

U2 形容詞の構造10種類

いろいろな形容詞の構造

表中(1)は単一の、(2)～(9)は複合の形容実体です。
(3a)(9)は単一のものもあります。

表U2-1 形容詞の構造の表

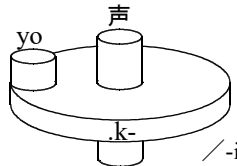
	形容詞の構造	例
(1)	本来の形容詞	良.k- / 重.k-
(2)	微妙意味付加詞を伴う形容詞	こ高.k- / ぶ厚.k-
(3)	実詞(名詞)(+ α)が形容実詞になる形容詞	青.k- / 恋し.k-
(4)	元の形容詞の主体・客体を含む形容詞	毛深.k- / 人なつっこ.k-
(5)	動詞と形容詞からなる形容詞	蒸し暑.k- / 待ち遠し.k-
(6)	2つの形容詞からなる形容詞	細長.k- / 狭苦し.k-
(7)	否定形による形容詞	くだらな.k- / いけな.k-
(8)	動詞の原因態が形容実詞になる形容詞	望まし.k- / 勇まし.k-
(9)	省略による形容詞	きも.k- / ださ.k-
(10)	構造未詳の形容詞	あぶな.k- / すばらし.k-

★この表の項目番号に従って説明をしていきます。

★例示する形容詞は現代語が中心です。枠内のk(**k**)は発音しません。

(1) 本来の形容詞

「本来の形容詞」とは、形容実詞がそれ以上分解できず、複数の詞にならないものです。たとえば、「良い yo.k-」の yo はそれ以上分解できません。



図U2-1 声が yo.k-i 良い

atu.k- (暑い), ita.k- (痛い), uma.k- (うまい), omo.k- (重い),
kata.k- (固い), kanasi.k- (悲しい), karu.k- (軽い), kitu.k- (きつい),
ko.k- (濃い), tanosi.k- (楽しい), too.k- (遠い), niga.k- (苦い),
haya.k- (早い), huka.k- (深い), mazu.k- (まずい), yasu.k- (安い)

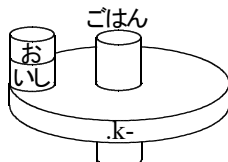
問U2-1 悲しい, めばしい, おとなしい, いやらしい, いきぐるしい, やかまし
い, ほほえましい, すばらしい, の「し」の違いは何ですか。

問U2-2 重い, 赤い, うつとうしい, あっけない, ここちよい, さりげない, あ
りがたい, たまらない, みつともない, の「い(k-)」の違いは何ですか。

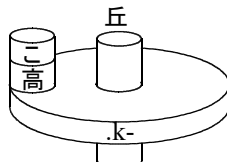
(2) 微妙意味付加詞を伴う形容詞

「微妙意味付加詞」とは、「おいしい」の「お」や「こ高い」の「こ」のように、それのつく「いし」や「高」の形容実詞性を変えずに微妙な意味を付加する詞です。

この詞は格で属性と関係をもたず、限られた形容詞にほぼ単一の意味でしかつかないので、構造モデルでは形容実体の上に載せる形で表示します。



図U2-2 微妙意味付加詞「お」



図U2-3 微妙意味付加詞「こ」

「おいしい o-isi.k-」は古語の女房詞の形容詞「いしい isi.k-」(美味だ)に丁寧の微妙意味付加詞「お」がついたものです。

「こ高い ko-daka.k-」では微妙意味付加詞「こ」が「少し」の意味を与えます。

微妙意味付加詞のその他の例として次のようなものがあります。

いけ-ずうずうし.k- 「いけ」は「非難」の意味を与えています。

うら-さびし.k- 「うら(心の意)」は「なんとなく」の意味。

お-寒.k- 「お」は「からかい・皮肉・自嘲」の意味。

か-細.k- 「か」は「非常に・弱々しい」の意味。

け-だる.k- 「け(気)」は「なんとなく」の意味。

しち-面倒くさ.k- 「しち」は「煩わしくていやだ」の意味。

ず-太.k- 「ず」は「(神経の太さが)並大抵でない」の意味。

そら-恐ろし.k- 「そら」は「なんとなくその気持ちが強い」の意味。

た-やす.k- 「た」は「やす.k-」の「わけもない」の意味を強めています。

だだ-広.k- 「だだ」は「むやみに」の意味。

なま-暖か.k- 「なま」は「程度が少しばかりである」の意味。

ぶ-厚.k- 「ぶ」は「はなはだしい」の意味。

ほの-暗.k- 「ほの」は「はっきり識別できない」の意味。

ほろ-にが.k- 「ほろ」は「少し」の意味。

ま-新し.k- 「ま」は「非常に」の意味。

もの-悲し.k- 「もの」は「なんとなく」の意味。

問U2-3 「こむずかしい」の「こ」について説明してください。

問U2-4 「どぎつい」「どす黒い」について説明してください。

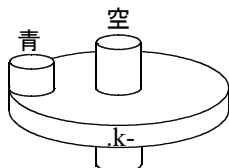
問U2-5 「ま新しい」と言えますが、「ま厚い」とは言えません。なぜですか。

(3) 実詞(名詞)(+α)が形容実詞になる形容詞

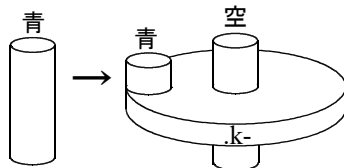
(3a) 実詞がそのまま形容実詞になるもの

青.k- (青い)

「青」のように実詞がそのまま形容実詞として機能するものがあります。



図U2-4 空が青い



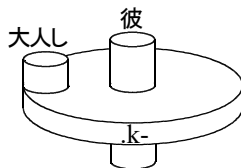
図U2-5 青 → 青.k-

黄色.k-, 煙.k-, 洪.k-, 白.k-, 心労.k- (しんどい), ナウ.k-, 非道.k- (ひどい), ひもじ(ひ文字).k-, 丸.k-, 目星.k- (めぼしい), やば.k-

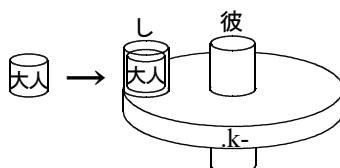
(3b) 実詞が小円筒形容実詞に入って形容実詞になるもの

たとえば、形容実詞としての小円筒実詞「し」は、中に実詞を入れてはじめて機能します。そのほかの小円筒形容実詞の例も順に取り上げます。

し その実詞の表す特徴を持つことを表す形容実詞です。大人+し.k-
si



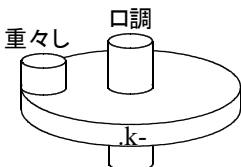
図U2-6 彼が大人し



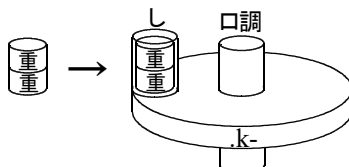
図U2-7 大人 → 大人+し.k-

愚かし.k-, 恋し.k-, 鬱陶し.k-, 新し.k- (←あらたし.k-), わびし.k-

実詞(形容実詞も)が重複することもあります。重々し.k-



図U2-8 口調が重々しい



図U2-9 重々 → 重々+し.k-

荒々し.k-, 痛々し.k-, ういういし.k-, うやうやし.k-, 雄々し.k-, 毒々し.k-, ばかばかし.k-, 華々し.k-, めめし.k-, 若々し.k-

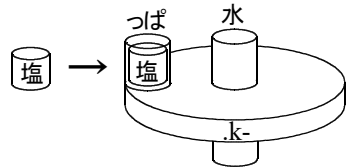
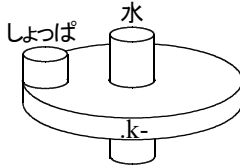
問U2-6 「めんどい」「かどかどしい」の構成について説明してください。

問U2-7 「長たらしい」の構成について説明してください。

っぱ

その実詞の表す味の特徴を強く持つことを表します。塩+っぱ.k-

ppa



図U2-10 水がしょっぱい

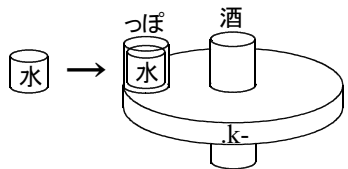
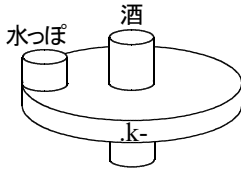
図U2-11 塩 → 塩+っぱ.k-

酢っぱ.k- [この ppa.k-は「はゆい hayu.k-」の変化形といわれます。]

っぽ

その実詞の表す特徴を持つ傾向があることを表します。水+っぽ.k-

ppo



図U2-12 酒が水っぽい

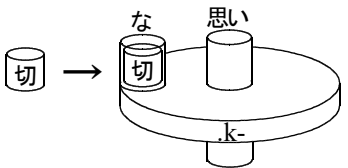
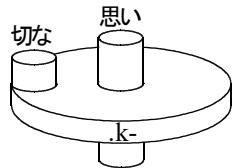
図U2-13 水 → 水+っぽ.k-

怒りっぽ.k-, 黒っぽ.k-, 子どもっぽ.k-, 新宿っぽ.k-, 俗っぽ.k-, 熱っぽ.k-, 骨っぽ.k-, 安っぽ.k-, 理屈っぽ.k-, 忘れっぽ.k
この ppo.k- は「おほい(多) oho.k-」の変化形であるとの説があります。

な

その実詞の表す意味を強めます。否定ではありません。切+な.k-

na



図U2-14 思いが切ない

図U2-15 切 → 切+な.k-

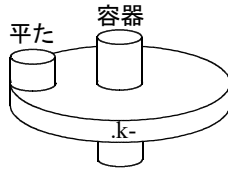
あっけな.k- あっけ[呆気](事の意外さに驚きあきれる状態)+な.k-
はしたな.k- はした[端](中途半端→慎みなく見苦しいさま)+な.k-
おぼつかな.k- おぼつか[覚束](不明瞭なさま)+な.k-
ぎこちな.k- ギこつ(無愛想で、荒っぽいこと)→ぎこち+な.k-
せつな.k- せつ[切](感情が胸に迫るさま)+な.k-
せわしな.k- せわし(=せわし.k-の形容実詞、忙しいさま)+な.k-
だらしな.k- だら(好ましくない状況・ふるまい)→だらし+な.k-

問U2-8 「はかない」「せつない」の「ない」について説明してください。

(つ)た

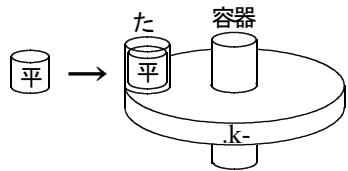
(t)ta

その実詞の表す感じの強いことを表します。平+た.k-
「た」は「いたし(はなはだしい)」の「た」であると考えられています。



図U2-16 容器の1は平たい

口幅った.k-, 野暮った.k-



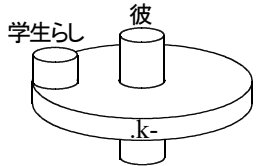
図U2-17 平 → 平+た.k-

[(4b)「重たい」(語源重視)と共通]

らし

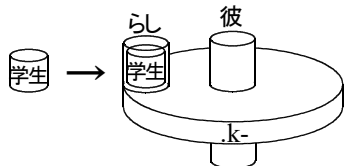
rasi

その実詞の表す意味にふさわしいことを表します。学生+らし.k-
また、そのように感じられることを表します。愛+らし.k-



図U2-18 彼の1は学生らしい

英語らし.k-, 男らし.k-, 正月らし.k-, 都会らし.k-, 人間らし.k-,
いやらし.k-, 可愛らし.k-, きたならし.k-, 憎らし.k-, 馬鹿らし.k-



図U2-19 学生 → 学生+らし.k-

たらし

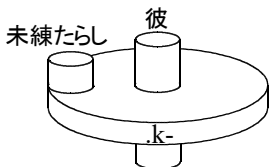
tarasi

その実詞の表す特徴を不快な感じで持つことを表します。

「た」は「態(たい)」から出たという説に基づきます。

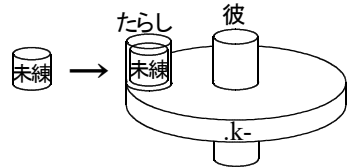
「未練たらしい」の元は「未練(の)態らしい」です。

「た」と「らし」の二重の小円筒と考えられます。



図U2-20 彼の1は未練たらしい

自慢たらし.k-, 憎たらし.k-, 貧乏たらし.k-, むごたらし.k-,



図U2-21 未練 → 未練+たらし.k-

ぼった／べった

botta / betta

「ぼ／べ」は「厚み／薄さ」の感覚です。「った」は上記参照。

「ぼ／べ」と「った」の二重の小円筒と考えられます。

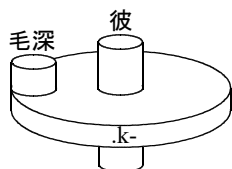
厚ぼった.k-, 腫れぼった.k- / 薄べった.k-, 平べった.k-

(4) 元の形容詞の主体・客体を含む形容詞

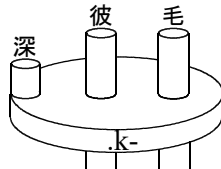
(4a) 元の形容詞の主体を含む形容詞A

A17.2⑫

「毛深い」のように、元の形容詞「深い」の主体「毛」が形容詞の中にあります。



図U2-22 彼01は毛深い



図U2-23 毛が深い

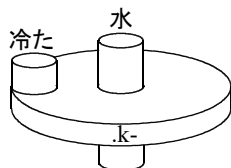
油っ濃.k-, 息苦し.k-, 意地汚.k-, 奥深.k-, 面白.k-, 恰好良.k- (かっこいい), かび臭.k-, 気味悪.k-, 義理堅.k-, 口うるさ.k-, こころ良.k-, こころ細.k-, 塩辛.k-, 末恐ろし.k-, 手厳し.k-, 名残惜し.k-

「疑い無い」のように、元の形容詞が「無.k-」であるものも多いです。

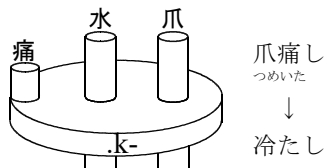
味気な.k-, おさな.k-, 心な.k-, さりげな.k-, 頼りな.k-, なにげな.k-, はかな.k-, 面目な.k-, 申し訳な.k-, もったいな.k-, やるせな.k-

「しょう(仕様)が無い」のように、格詞「が」が読まれる場合もあります。

「冷たい」は元「(冷水が原因で)爪痛し」でした。(因果の複主体 Sのp.43参照)



図U2-24 水が冷たい

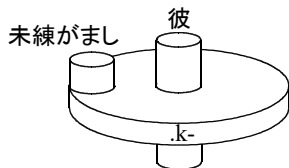


図U2-25 水01は 爪が痛い

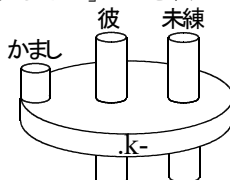
(4b) 元の形容詞の主体を含む形容詞B

上の「毛深い」と同様のものですが、元の形容詞は現代語では使われません。

「未練がましい」の「かましい」は「あることがうるさい」ことを表します。



図U2-26 彼01は未練がましい



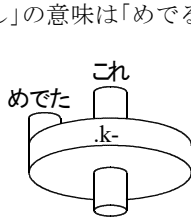
図U2-27 未練がかましい

言い訳がまし.k-, おこがまし.k-, 差し出がまし.k-, 晴れがまし.k-

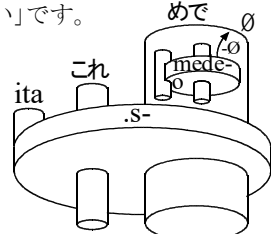
「かぐわしい」は「香がくわし.k- (すぐれている)」からきています。

「めでたい」は元「めでいたし」で、この中に古語の形容詞「いたし(はなはだしい)」が入っています。「めで」は動詞「めでる(心がひかれ、素晴らしいと思う)」の名詞形です。「めでたし」の意味は「めでることがはなはだしい」です。

C8.10



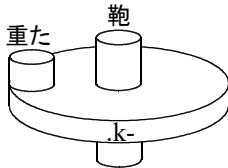
図U2-28 これ01はめでたい



図U2-29 めで01いたし

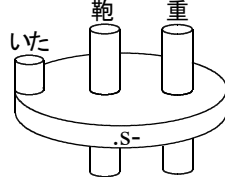
「くすぐったい／じれったい」も「くすぐり／じれ」が「いたし」です。

「重たい」では、同じく「いたし」が使用されて、「重」という形容実詞の表す特徴が強いことを表します。重た.k- [(3b)「(つ)た」と共通]



図U2-30 鞆が重たい (重=た.k-)

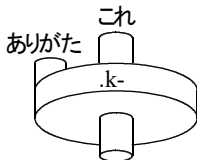
煙た.k- (←煙.k-), 眠た.k- (←眠.k-)



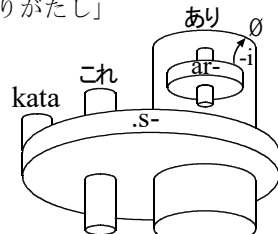
図U2-31 重01いたし

「ありがたい」は元「ありがたし」で、この中に古語の形容詞「かたし(容易でない、むずかしい)」が入っています。「あり」は動詞「ある」の名詞形です。つまり、「ありがたし」の意味は「存在することが容易でない」です。

C8.10



図U2-32 これ01はありがたい



図U2-33 あり01かたし

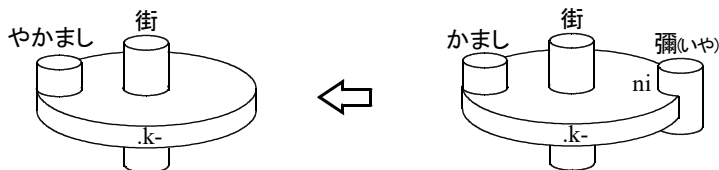
「耐えがたい」は「耐えることが」「むずかしい」の意味です。

得がた.k-, 救いがた.k-, 度がた.k-, 許しがた.k-, 理解しがた.k-

問U2-9 「めでたい」「ありがたい」の「たい」の異同を説明してください。

(4c) 元の形容詞の客体を含む形容詞

「やかましい」は、元の形容詞「かましい」の ni格客体「彌(いや)」を含みます。



図U2-34 街01はやかましい

図U2-35 iya-ni=kamasi.k-
「彌(いや)-ni」は「非常-ni」の意味

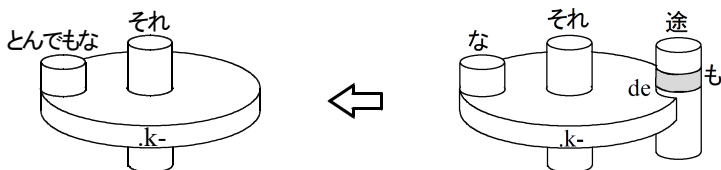
[de 格] かたわら痛.k- (傍ら-de 痛.k-), かん高.k- (甲(かん)-de 高.k-),
とんでもな.k- (↓下記参照), 半端な.k- (↓下記参照)

[ni 格] いちじるし.k- (いち-ni しるし.k-), 涙もろ.k- (涙-ni もろ.k-),
人なつっこ.k- (人-ni なつっこ.k-), 目新し.k- (目-ni 新し.k-)

[to 格] そこはかとな.k- (そこ・はか-to な.k-),
ひよろ長.k- (ひよろ-to 長.k-), むずがゆ.k- (むず-to かゆ.k-)

[kara 格] 縁遠.k- (縁-kara 遠.k-)

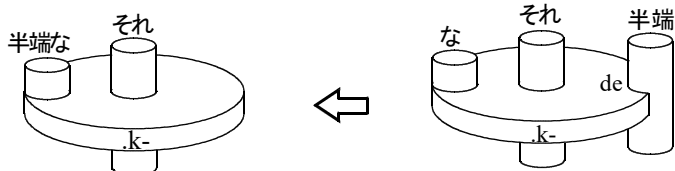
「とんでもない」は形容詞「無い」の de 格に客体「途(と)」が立っている「途でもない」(途方もない・思いもよらない)からきています。



図U2-36 それ01はとんでもない

図U2-37 途-de-mo=na.k-i

「半端ない (徹底している)」はまだ俗語的ですが、「半端でない」からきていますので、形容詞「無い」の de 格に客体「半端」が立っています。



図U2-38 それ01は半端ない

図U2-39 それ01は半端でな.k-

問U2-10 「とんでもない」「しょうがない」の構造上の違いは何ですか。

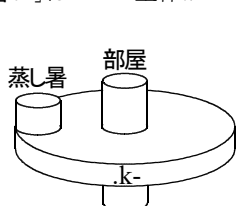
問U2-11 「目新しい」「目ざとい」の構造上の違いは何ですか。

(5) 動詞と形容詞からなる形容詞

(5a) 同一主体が動詞と形容詞を属性とするもの

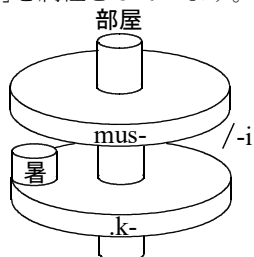
A17.2⑪

「蒸し暑い」は1つの主体が2つの形容詞「蒸す」「暑い」を属性としています。



図U2-40 部屋が蒸し暑い

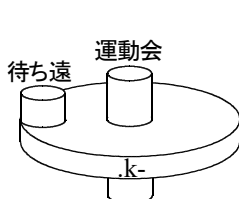
(話が)回りくど.k-, (私が)寝苦し.k-



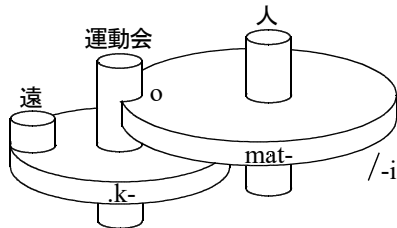
図U2-41 部屋が^g mus-i=atu.k-

(5b) 動詞と形容詞がそれぞれの主体を持つもの

「待ち遠い」は「待つ」対象(運動会)が時間的に遠くにあることを表します。



図U2-42 運動会が待ち遠い

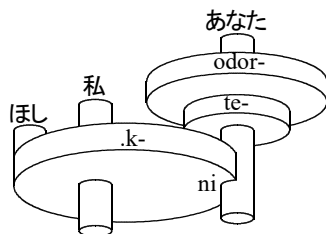


図U2-43 mat-i=doo.k-

「お待ち遠様」はこの「待ち遠」にねぎらいを表す「様」がついた挨拶表現です。

「待ち遠い」は形容実詞「待ち遠」が「し」に入ったものです[本書p.12の3(b)]。

「踊ってほしい」も上の (5b) のように動詞と形容詞がそれぞれの主体を持っていますが、「て」を介しているために、「踊る」と「ほしい」の間に時間のズレが生じています。それで、「踊ってほしい」は1語の形容詞ということではできません。これは「ほしい」の使い方の1つです。



図U2-44 あなたに／が踊ってほしい

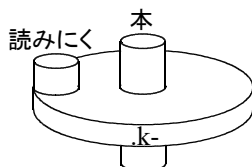
問U2-12 「水が／を飲みたい」で、なぜ「水が」でも「水を」でも言えるのですか。

問U2-13 「その話は聞き苦しい」の構造はどうなっていますか。

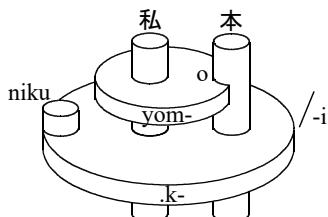
(5c) 下の形容詞が動詞のある上置き構造の実現について表現するもの

21.2

「読みにくい」は上置き構造「本を読む」の実現が困難であることを表します。「本を読む」という論理関係が重視される場合は「本を読みにくい」と描写し、「読みにくい」という状況が重視される場合は「本が……」と描写します。



図U2-45 本が読みにくい



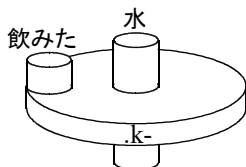
図U2-46 本を／が yom-i=niku.k-

「姿がみにくい(醜い)」はこの構造「見にくい」から出ていると考えられますが、すでに「醜さ」を表現するだけのものとなっており、上置き構造の論理関係を生かしての「*姿を醜い」との描写はできなくなっています。(もちろん、「暗くて姿が／を見にくい」の状況表現の場合は主格、客格で描写できます。)

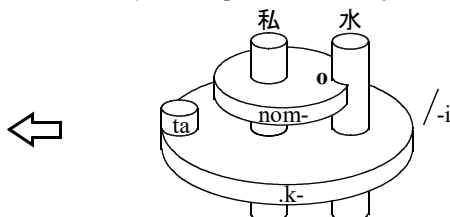
「食べづらい、飲みやすい」などは「読みにくい」と同様に両方が可能です。

「飲みたい」は話者が上置き構造「水を飲む」の「実現を願望している」ことを表しています。「たい」は「いたし(甚)」が語源であるとされています。

「水を飲む」という事象の論理関係が重視される場合は「水を飲みたい」と描写し、「水を飲む」願望が重視される場合は「水が飲みたい」と描写します。



図U2-47 水が飲みたい

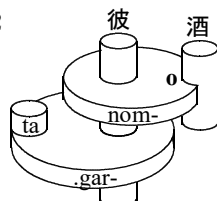


図U2-48 水を／が nom-i=ta.k-

「飲みたい」……上図のように「たい ta.k-」という下置き形容詞を使用しているので二重主語になります。

「飲みたがる」……右図のように「たがる ta.gar-」という(融合)動詞を使用しているので二重主語になりません。つまり、「酒が」となりません。

21.2

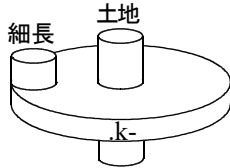


図U2-49 酒を飲みたがる

(6) 2つの形容詞からなる形容詞

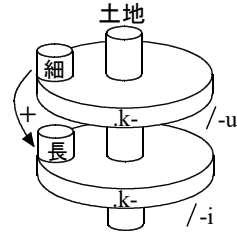
(6a) 主体が1つのもの

「細長い」は1つの主体(土地)が2つの形容詞「細い」「長い」を同等の属性としています。



図U2-50 土地が細+長い

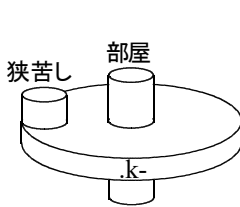
甘酸っぱ.k-, 青白.k-, こすから.k-



図U2-51 hosu.k-u naga.k-i

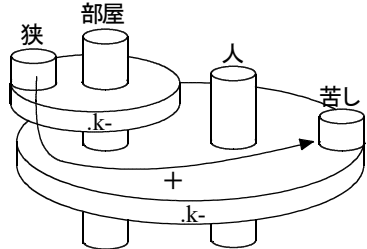
(6b) 主体が2つのもの

「狭苦しい」では、1つの主体(部屋)は「狭い」「苦しい」に対して本主体ですが、別の主体(人)は「苦しい」に対して属性主体になっています。「部屋の狭いこと」が「人が苦しさをを感じる」原因になっています(S2.1 hs①)。



図U2-52 部屋01は狭+苦しい

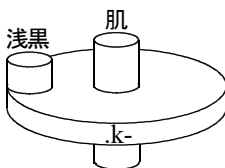
重苦し.k-, 堅苦し.k-, 暑苦し.k-



図U2-53 部屋01は狭く、人が苦しい

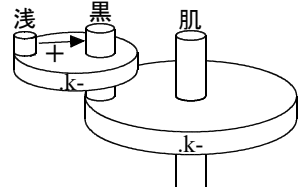
(6c) 一方の形容詞が他方の形容実体を修飾する形容詞

「浅黒い」は前の形容詞が後ろの形容詞の様態を限定しています。(第4修飾)



図U2-54 肌が浅+黒い

悪賢.k- (←悪く賢い), うす暗.k- (←うすく暗い)



図U2-55 asa.k-u kuro.k-

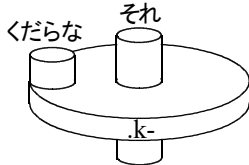
問U2-14 「甘たる.k-」はどんな構造をしていますか。

(7) 否定形による形容詞

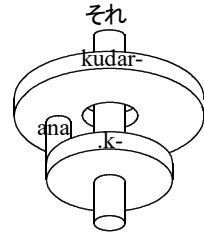
32章

(7a) 動詞の否定形が形容詞になるもの

「くだる」(つかえずに進む)の否定形「くだらない」は
「理屈に合わない/つまらない」の意味になります。



図U2-56 それの1はくだらない

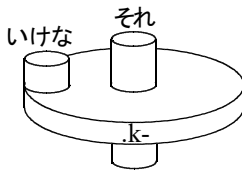


図U2-57 kudar-ana.k-

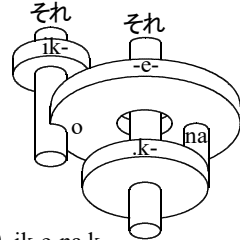
堪らな.k-, 詰まらな.k-, 煮え切らな.k-, もの足りな.k-, やむを得な.k-

(7b) 態詞の否定形が形容詞になるもの

「いけない」は ik-e-na.k- のことで、許容態 -e- (可能)を否定しているために
「行くことができない、よくない」の意味になっています。(S3章参照)



図U2-58 それの1はいけない

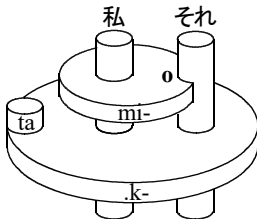


図U2-59 ik-e-na.k-

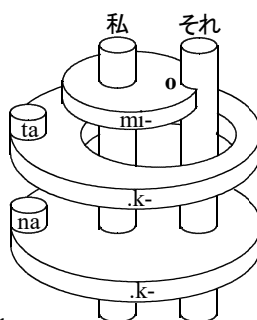
やり kir-e-na.k-, 計り sir-e-na.k-, ku(w)-e-na.k-, kotae-rar-e-na.k-

(7c) 形容詞の否定形が形容詞になるもの

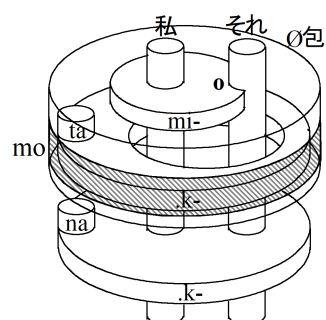
みっともない



図U2-60 見たい



図U2-61 見たくない



図U2-62 みっともない

見たい mi-ta.k-i

見たくない mi-ta.k-u-na.k-

見たくもない mi-ta.k-u-mo-na.k-

見たうもない mi-ta.k-u-mo-na.k- → mi-too-mo-na.k- → 強め mi-tto-mo-na.k-

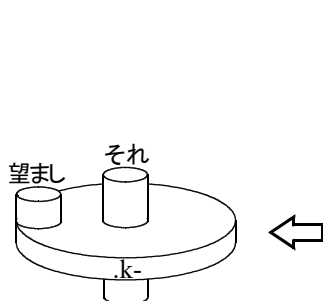
(8) 動詞の原因態が形容実詞になる形容詞

B2章, S3.3

(8a) 形容詞の主体が原因者である場合

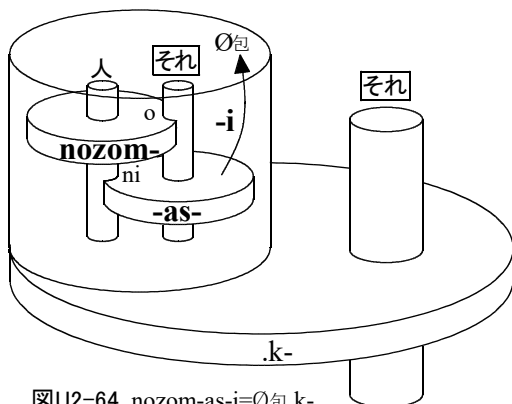
「それは望ましい」は「nozom-as-i=0包.k-」のように原因態(S3.3)を含んでいて、「それ(主体)」が「人が望む原因になる」という意味になっています。

nozom-as- 望ます(原因態) nozom-as-i=0包 望まし(名詞化)(形容実体)
-as-の主体(それ)と.k-の主体(それ)が同じもので、形容詞の主体(.k-の主体)が動詞の示す状態の原因者である、ということを示します。



「それ」は「望ませる」原因者

図U2-63 それ_iは望ましい



図U2-64 nozom-as-i=0包.k-

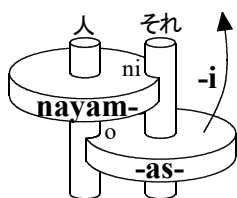
いらだたし.k-, うとまし.k-, うらやまし.k-, 奥ゆかし.k-, 悔し.k-,
なつかし.k-, 悩まし.k-, 願わし.k-, ねたまし.k-, 腹立たし.k-,
誇らし.k-, ほほえまし.k-, めざまし.k-, 喜ばし.k-, わずらわし.k-
ゆかし.k- (そこに行きたいと思うように心ひかれる。上品、優美さなど。)

悩まし.k- ↓, (奥)ゆかし.k- ↓, 腹立たし.k- ↓

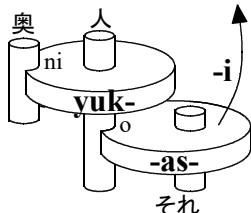
※動詞が「悩む」などの自動詞の場合はo格, ni格が変わります(下左図)。

※自動詞では-as-の主体と格関係がない場合もあります。(下中央図)

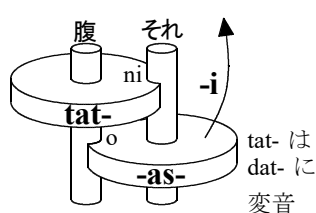
※「腹立たし」のように動詞主体が「人」でない場合もあります(下右図)。



図U2-65 悩まし(nayam-as-i=)



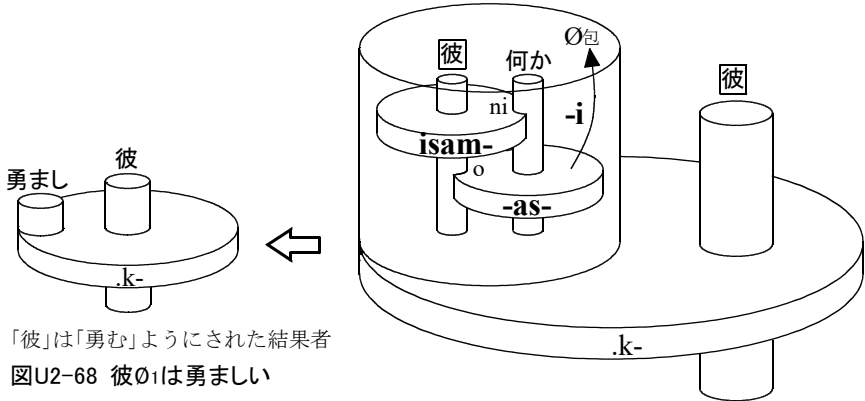
図U2-66 奥ゆかし(yuk-as-i=)



図U2-67 腹立たし(腹=dat-as-i=)

(8b) 形容詞の主体が結果者である場合

「彼は勇ましい isam-as-i=Ø包.k-」は、何かが原因者となって生じた結果としての「彼」の状態を表しています。形容詞の主体(k-の主体、「彼」)は、その結果状態の主体なので結果者であるといえます。



「彼」は「勇む」ようにされた結果者

図U2-68 彼のiは勇ましい

図U2-69 isam-as-i=Ø包.k-

- 騒がし.k- 何かが人々を「騒ぐ sawag-」状態にしました。
 すさまじ.k- ←すさまじ.k-, 何かがそれを「すさむ susam-」(はなはだしくなる)状態にしました。
 そそっかし.k- 何かが人を「そそく sosok-」(とり急ぎ事をする)状態にしました。軽率で不注意な状態になっています。
 なまめかし.k- 何かが人を「なまめく nama.mek-」(さりげないふるまいが優美に見える)状態にしました。
 古めかし.k- 何かがそれを「古めく huru.mek-」(古びて見える)状態にしました。
 けがらわし.k-, つつまし.k-, 似つかわし.k-, ふさわし.k-, 睦まじ.k-

(8c) 原因態-os-形

原因態が -as- でなく -os- の形で表れる場合もあります。

(8a) 恐ろし.k- (osor-os-i=Ø包.k-)

B9.6②

頼もし.k- (tanom-os-i=Ø包.k-)

よろし.k- (寄ろし.k-) (yor-os-i=Ø包.k-)

(8a)(8b) 狂おし.k- (kuru-os-i=Ø包.k-)

問U2-15 「疑わしい」「輝かしい」の主体と元の動詞の意味の関係の説明。

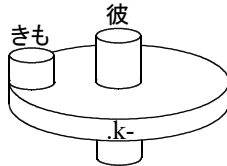
問U2-16 ①「琴の狂おしい音色」、②「彼の狂おしい情熱」についての説明。

(9) 省略による形容詞

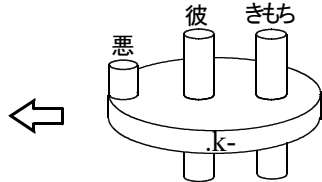
省略によって作られた形容詞もあります。

「きもい」は「気持ちが悪い」が省略されてできた形容詞です。

kimo(ti-ga=waru).k-

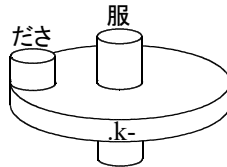


図U2-70 彼の1はきもい



図U2-71 彼の1はきも(ちが悪)い

「ださい(あかぬけしない)」は、「出身は? …なあんだ、埼玉か」が省略されてできた形容詞です。いきなり「ださ」という形容実詞が生まれました。



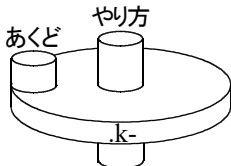
図U2-72 服がださい

(10) 構造未詳の形容詞

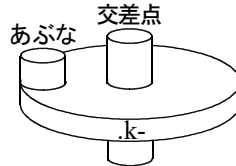
以上に取り上げた形容詞は語源の比較的確実なものです。これ以外のものの多くは語源が未詳で、構造が把握できていません。しかし、構造は上に示したもののいずれかでであろうと考えられます。未詳の例の一部を挙げておきます。

あくど.k-, あぶな.k-, うるさ.k-, うれし.k-, おびたし.k-, きたな.k-,
したし.k-, すくな.k-, すばらし.k-, つたな.k-, とぼし.k-, はずかし.k-,
まずし.k-, まぶし.k-, みじか.k-, むなし.k-, ややこし.k-

これらの形容詞は、構造は未詳ですが、形容詞としてはふつうに使用できます。



図U2-73 やり方があくどい



図U2-74 交差点の1はあぶない

問U2-17 「おもしろい」はどう考えればよいですか。

問U2-18 「しょんどい(正直しんどい)」「エモい(emotion)」はどう説明しますか。

コラムU2

6.3～6.7, A17.1⑥

3種類の円筒

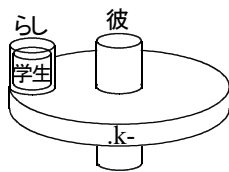
円筒は実詞(実体)として機能しますが、これを3種類に分けます。

小円筒 実体を中に入れて使用します。

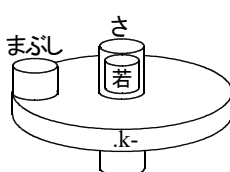
(カプセル) 実体を中に入れて形容実体にする小円筒は「し/た/っぱ/っぽ/な/らし/たらし」(本書pp.12-14に例示)などです。(下左図)

小円筒「さ/み/げ/そう」は形容実体を実体にします。(下中央図)
(本書p.36参照)

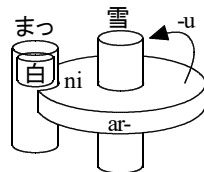
小円筒「まっ」も形容実体を実体にします。(下右図)



図U2-1 学生らし.k-



図U2-2 若さが

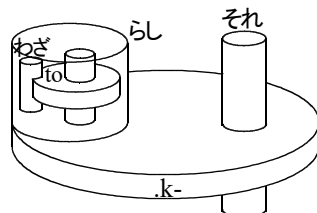


図U2-3 真っ白な

中円筒 構造の一部を生かす形で

(カプセル) 中に入れて使用します。

形容実体である中円筒は「らし」などです。

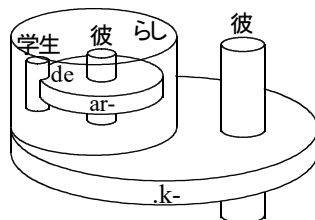


図U2-4 それ01はわざとらしい

大円筒 構造を中に入れて使用します。

(包含実体) これは『日本語のしくみ(1), (2)』や、本書のあちこちに示してある「包含実体」のことです。

形容実体としては「らし」(右図)や、本書pp.22-23の0の包含実体の例などがあります。



図U2-5 彼01は学生(である)らしい

- 問U2-19 形容実詞「っぱ」の小円筒，中円筒，大円筒での例を考えてください。
問U2-20 「まっ白い」「まっ白な」の「ま(っ)」は同じものと考えてよいでしょうか。
問U2-21 小円筒「彼は学生らしい」，大円筒「彼は学生らしい」の否定の違いは？

コラムU3

生涯教育

「日本語構造伝達文法」を生涯教育のつもりで受けたい、と言って受講に来てくださった年配の方がいました。現在の私は69歳ですが、このくらいの方でした。若いときは国語文法にも関心があったとのことでした。

講義が始まって、動詞の形態素分析は「飲まされる nom-as-ar-e-ru」のように、ひらがなではできない、と言ったところ、質問をしてくれました。

質問：では、橋本進吉や時枝誠記などの国語学者は間違っていたのですか。

私の回答：この文法の立場では、そう言わざるを得ません。

その方は怒ってしまいました。この世に国語学者の権威を否定する論があらうなどとは夢想だにできなかったに違いありません。聞く価値がないということなのでしょう、2回目からの講義にはおいでになりませんでした。

その方にとっての生涯教育とは、時間の経過とともにあやふやになってしまった若いころの知識を、再確認・再構築することだったのだと思います。たしかに、ふつうの国語学の文法なら、基本的認識は百年以上変わっていませんから、その期待には十分応えることができるはずです。

私は退職し自由人になってから、歌謡教室で昭和歌謡を改めて練習し始めました。若いころに親しんだ歌を正確に歌えるようになる喜びを実感しています。まさに生涯教育です。その方は国語文法で同じ喜びを味わおうとしたのでしょう。

「日本語構造伝達文法」はそのような方の生涯教育には向かないのだとつくづく思いました。では、どんな方の生涯教育にも向かないのか、と自問してみました。いいや、そんなことはないはずだ、というのが答えでした。次のような方なら喜んで受け入れてくれるにちがいないと考えるようになりました。

- ・日本語の文法を論理的に説明することを望む方
- ・日本語教育に携わり、学習者から受けた文法上の質問の回答に苦心した方
- ・国語文法では文法現象の論理的な説明ができないことに失望している方
- ・外国の言語理論では日本語の文法を捉えきれないことに失望している方
- ・国語学(文法)の権威の根拠を確認しようと考えている方
- ・日本語を一貫した理論で体系的に捉えたいと望んでいる方

このような方ならきっと理解してくれるだろうと思います。しかし、このような方はそう多くはないだろうとも思います。

* * * * *

私はそのような方を友として「日本語構造伝達文法」を書いています。残された時間は少ないですが、未来の日本人に宛てて、与えられた勤めを果たします。